



九州大学基幹教育に新科目：「囲碁で養う考える力」を開講 —学び方を学ぶ、考え方を学ぶ基幹教育において、囲碁を題材としたユニークな授業 を開講することについて—

概 要

九州大学の基幹教育に新科目として「囲碁で養う考える力」を開講します。本科目は、基幹教育の理念に基づいた、学び方、考え方を鍛えるための新科目として期待されるものです。近年、日本棋院のサポートにより囲碁を用いた授業が小学校から大学まで広く実施されています。本学でも、医学研究院・須藤教授（囲碁部顧問）が中心となり本科目の企画を立案し、平成 27 年度後期から開講することとなりました。

■内 容

九州大学の基幹教育・総合科目の新しい科目として「囲碁で養う考える力」が開講されます。本科目は「ものの見方・考え方・学び方」を学ぶ教育である基幹教育の科目の一つとして、囲碁を通じて、「論理的な思考を鍛え」、「相手の立場に立ったものの見方を身に付け」、さらには、「伝統文化を学び、国際化に備える」等、さまざまなねらいが込められています。今回の講義は、本学医学研究院須藤信行教授が担当し、東京よりプロ棋士である吉原由香里六段を講師として招聘、さらに日本棋院、および日本棋院九州本部のサポートのもとで開講されます。また、学内からも囲碁部関係者（前顧問・久保総長および囲碁部部員）が講義の企画運営に協力・参加します。

この講義は、九州大学伊都キャンパスにおいて、平成 27 年 10 月 7 日から平成 28 年 2 月 3 日まで、合計 15 回の講義が計画されています。主に、初心者を対象として本学の 1 年生～4 年生（一部学部では 6 年生まで）の希望者が受講者となります。また、今秋に竣工する亭亭舎が完成次第、同施設で講義を行う予定です。

■目的・効果

本科目では、囲碁を通して、汎用的な人間力の一つの大きな要素である「ロジカルシンキング（論理的思考）の向上をはかり、考える力を養うことを目的とします。また、受講学生は、日本の伝統文化として伝承されてきた囲碁を学び、対局を通して「考える力」と「集中力」を磨きます。さらに、世代間・国際間のコミュニケーションツールとしても位置付けられる囲碁を用いて、対局を通して生まれる対話や人脈から、グローバルな活動につなげていけるよう囲碁を学んでいきます。

■今後の展開

九州大学の基幹教育・総合科目では、このようなユニークな授業・講義・実習科目を開講し、学生の学ぶ力、考える力をはじめとした、自ら学ぶ姿勢を涵養し続けます。

【用語解説】

基幹教育とは：新たな知や技能を創出し未知なる問題をも解決していく上での幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学ぶ、大学入学時から高年次・大学院に至る教育が九州大学の基幹教育です。特に、基幹教育では、「学び方、考え方を学ぶ」姿勢の涵養こそが学問追究の基本であるという観点に立ち、自ら問いを立て主体的な学びのできるアクティブ・ラーナーを育成することを目指しています。

囲碁を用いた授業・講義：平成 27 年春の段階で囲碁を用いた授業・講義は、国内大学 20 校、高等学校 4 校、中学校 5 校、小学校 28 校で実施されている。日本棋院が近年力を入れた活動を行っています。

亭亭舎：「新亭亭舎：2014/08/21PRESS RELEASE 参照」

【お問い合わせ】

九州大学学務部基幹教育課

電話：092-802-5941

FAX：092-802-5990

Mail：gazkyomu@jimu.kyushu-u.ac.jp

日本棋院 学校普及事業

学校・地域自治体のみなさまへ

はぐくめ 知的好奇心

囲碁は子どもたちの情操教育に最適です

伝統文化

源氏物語、枕草子 など日本を代表する文学作品にも囲碁の場面が登場します。戦国の武将が楽しんだ囲碁。過去を知ることは、未来を知ること。



考える力

一局を打つあいだ、いろんな事をじっくり考えます。囲碁を通じて考える習慣が身につきます。考える力は囲碁以外でも役に立つはず。



コミュニケーション力

囲碁は別名「手談」といいます。自分がどう打つかとともに、相手がどう打つのだろうかと常に考えるゲーム。世代や国籍を超えて、真のコミュニケーションが広がります。



礼儀作法

囲碁は一人ではできないゲーム。始まりは「お願いします」勝っても負けても「ありがとうございました」で終わります。相手がどう打つか考えていくことで自然に敬意が育ちます。



- 概要 事例トップ メディア 申込方法(流れ) 囲碁ってなあに? 囲碁の歴史 よくあるご質問 支援のお願い

囲碁体験教室のご案内
公益財団法人日本棋院では、全国の小・中・高等学校に入門囲碁体験教室を出前しています。『放課後子ども教室』をはじめ『伝統文化の体験学習』『総合学習』『クラブ活動』で実施しています。授業では小さい碁盤を使用し、4つのルールを学びます。すぐに囲碁が楽しめるようになります。

お問い合わせ・お申し込みはこちらまで

全国の囲碁教室

- 学校囲碁部・教室 囲碁未来教室

入門講座／読み物

- 楽しい囲碁入門 囲碁の歴史 囲碁の効能

囲碁の普及事業

- 日本棋院 学校普及事業 がっこう囲碁普及基金 囲碁少年少女育英資金 東日本大震災支度復興支援タケブ基金 中部青少年普及囲碁基金 ご寄付のお願い みんなで学ぶ楽しい囲碁入門教室

指導者育成

- 普及指導員 公認審判員・県師範 学校囲碁指導員 子ども囲碁入門指導について

囲碁大使

- 囲碁大使とは 囲碁大使プロフィール

囲碁ソフトダウンロード

- 石取りゲームマシーン 九路盤ソフト 棋譜再生・編集 Kiin Editor

囲碁スマホアプリ

- 日本棋院のスマホアプリ

朝日新聞

http://digital.asahi.com/articles/DA3S11720953.html?_requesturl=articles/DA3S11720953.html

2015年4月23日16時30分

[教育現場](#)で注目を集める囲碁が、裾野をさらに広げている。初の開講から10年経ったプロ棋士による大学での囲碁授業は昨年度、20の大学に到達。この4月、新たに1大学が加わった。全国各地の小中学校などでも授業への採り入れが進む。

「これ、おもしろい!」「ここに打てるのかな」。20日、プロ棋士の穂坂繭三段から基本的なルールを学んだ大学生38人が、碁石と小さな碁盤で「石取りゲーム」を始めた。相手の石の縦横を囲んだら取れるというルールの一部を使ったゲーム。遊び感覚の練習に、教室内は活気にあふれた。

東京都[小金井市](#)の東京学芸大。同大が囲碁の授業を開くのは初めてだ。13日の第1回は伝統文化としての囲碁の側面や歴史を紹介。前期計15回の授業で、全員が正式なサイズの碁盤で対局ができるのを目標としている。この日の最後には小さな碁盤で実際の「陣取りゲーム」にも挑戦した。

[日本棋院](#)のプロが教える大学授業は2005年度の東京大が先駆け。5年後には[早稲田大](#)、[慶応大](#)などが続き、昨年度は[一橋大](#)、大阪大などが加わって20大学にのぼった。各大学は総じて、「論理的な思考力を育てたい」と期待する。複雑な盤上の変化を読む中で、相手がどうくるかを考える洞察力、その手に対応する柔軟性、さらには忍耐力、コミュニケーション力にもつながるといわれる。

初めて大学授業を担当する穂坂三段は、学生の理解の速さと積極的な反応に舌を巻いた。「次回以降の授業で教えようと思っていたレベルのことを、どんどん踏み込んで質問してくる。まったくの見当外れのところに打つことがなく、すでに囲碁の形になっている。さすが大学生です」。東京学芸大は卒業生の多くが[教育現場](#)に出る。学長補佐の小嶋茂稔准教授は「伝統文化に触れ、囲碁に対する理解と技術を身につけることによって、色々な引き出しを持った教師になってほしい」と語る。「名の通った多くの大学で実施されていることも後押しになった」とも話した。

[日本棋院](#)はさらに複数の大学に働きかけており、[後期課程](#)を視野に、今年度は25大学での実施をめざす。

■小中高では37校、参加者は1・4倍に [日本棋院](#)、PRや基金

[日本棋院](#)が今月まとめた集計によると、昨年度は全国37の小中高校で同棋院のプロらが指導する正課授業が開かれ、1万2千人以上が囲碁に親しんだ。参加者数は前年度の約1・4倍だという。

[東京都中央区](#)では、16ある区立小学校のうち9校でプロ棋士が教えた。同[千代田区](#)は、放課後などの非正課活動を含めると、区立の全8小学校に囲碁を学ぶ環境がある。昨年度は[北海道岩見沢市](#)、[秋田県能代市](#)の小学校でも実施、今年度は[三重県熊野市](#)の計4小中学校で新たに授業化される。

囲碁人口の減少に苦慮する同棋院は昨年、「学校囲碁推進室」を設置して若い層への普及態勢を強化。各地の教育委員会や校長会で囲碁の魅力をアピールしているという。担当者は「特に小学校からの引き合いが多く、[波及効果](#)は全国に及んでいる。有名大学で開講されているという実績も影響しているのではないかと話す。同棋院は今月、教材の経費などにあてる目的の募金「がっこう囲碁普及基金」を始めた。(伊藤衆生)

■昨年度の学校囲碁授業

	実施数	参加者数
大学	20	1048人
高校	4	2621人
中学校	5	1929人
小学校	28	7768人

※ [日本棋院](#)が棋士らを派遣した学校のみ

東大が10年前に授業で初めて囲碁を教えて以降、囲碁授業を採用する大学が増え、この新学期から全国で21校になった。囲碁を通じて「考える力」を養い、集中力を磨く効果があると学生の人気が高い。現在、導入を検討している大学もあり、今後さらに増えそうだ。

2004年に日本棋院の理事長に就任した加藤正夫九段は「教育現場を通じた囲碁の普及、発展」を目指して東大を訪問し、プロ棋士が指導する囲碁入門の授業を提案したのが始まりだった。

東大側は「囲碁は広く学生の思考力の向上に役立ち、いろいろな意味で学問を支える教養教育の基礎になる」として受け入れ、翌年秋から授業が始まった。対象は囲碁を全く知らない学生。石倉昇九段らプロ棋士3人が講師となり、計13回の授業でルールから始めて、実際に囲碁が打てるまで教える。授業を受けた学生はほかの授業と同じように単位がもらえる。

その後、早大や慶応大、東京学芸大、京大、大阪大などに広がった。教えるプロ棋士も教え方の研修を受け、現在約30人が教壇に立っている。

12年から始めた青山学院大は「囲碁で養うロジカルシンキング」と名付けた授業で前期50人、後期50人を募集。学生の人気が高く、200人以上が応募し、作文で選考しなければならないほどだ。

この授業担当の増田捷紘教授は「白石と黒石だけの囲碁では自由にその石の役割を自分で考え、対処する。これは論理的思考の能力を高めると同時に、常に考える習慣が得られ、大局観と局所の見方の両方が身につく。今後も囲碁授業に力を入れたい」と話している

(河北新報囲碁記者 田中章)